中部様式1

令和元年度　地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

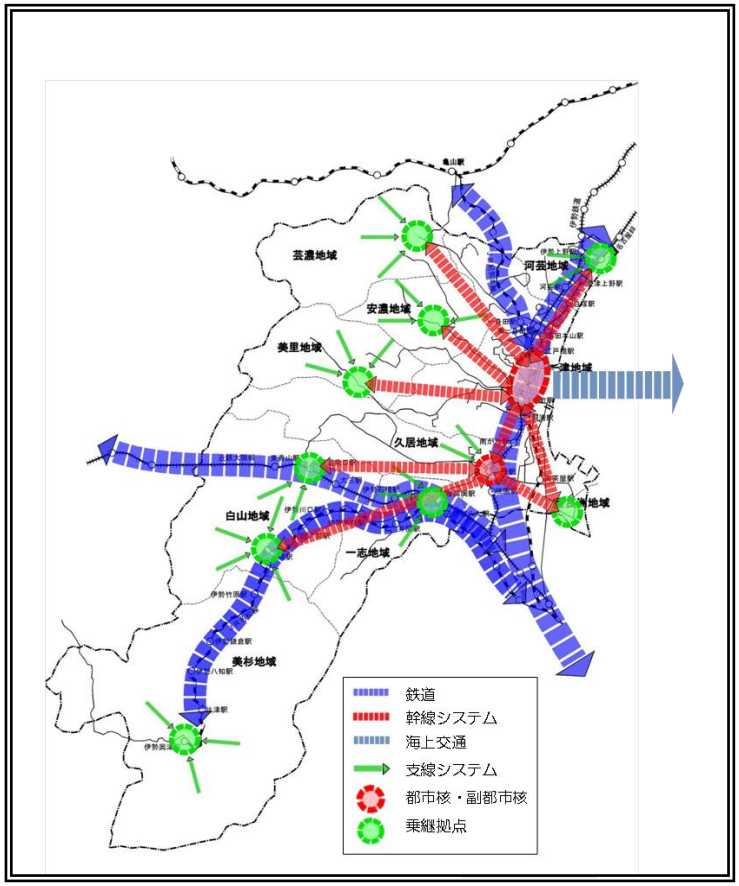
津市地域公共交通活性化協議会

平成２０年8月２０日設置

フィーダー系統　平成３０年５月２９日　確保維持計画策定等

津市の概要	
面積	７１１．１９㎢（県内最大）
隣接自治体	鈴鹿市、亀山市、名張市、伊賀市、松阪市、奈良県（御杖村、曽爾村）
経緯	平成１８年１月　１０市町村が合併して誕生 平成２２年４月　旧市町村で実施していたバス事業を「津市コミュニティバス」として再編　➡　平成２５年４月　本格運行開始

津市地域公共交通網形成計画	
基本理念	一体感のあるまちづくりを支え、誰もが移動できる公共交通体系の実現
基本方針	①　地域をつなぎ、住みやすいまちづくりを実現する公共交通ネットワークの構成
	②　地域の特性に応じた利便性の高いコミュニティ交通の実現
	③　公共交通サービスをサポートし、利用促進につながる交通体系の実現
	④　持続可能な交通サービスが提供できる交通体系の実現とＰＤＣＡサイクルの確立
	⑤　市民、交通事業者、行政の協働による仕組み作り
計画期間	５年間（平成２７年４月～令和２年３月）



網形成計画に位置づけられている主な事業

- 乗継設定と待合環境の整備
- 津市自主運行バス（廃止代替バス）の見直しへの着手
- 津市コミュニティバスの整備と運行　➡　①地域公共交通アンケート
- 地域住民運営主体型コミュニティ交通事業の推進
- 高齢者に特化した割引制度や設備等の検討　➡　②津市高齢者外出支援事業

①地域公共交通アンケート

実施日	平成３１年２月～３月
目　的	地域公共交通の利用が多い６０歳以上の市民の外出実態を把握し『第２次津市地域公共交通網形成計画』策定及び津市コミュニティバス等再編の基礎資料とする
対　象	市内に住所を有する６０歳以上の方
調査方法	・市内を６３地区に区分し、各地区の６０歳以上の市民５０人ずつを無作為抽出し送付（合計３，１２７人） ・回収数２１９７件（回収率７０．３%）
調査結果	【移動ニーズ】 一部地区で、地域外への買物、通院の外出が一定数存在 【外出頻度】 買物週２～３日、通院週１回未満

②津市高齢者外出支援事業

開始日	平成２９年９月２５日
対　象	市内に住所を有する６５歳以上の方
内　容	・オリジナルＩＣカード（シルバーエミカ）を無償交付 ・年間２，０００ポイントを上限に乗車ポイントを付与
詳　細	①三重交通Ｇの路線バス➡ポイント精算 ②津市コミュニティバス➡カード提示で無料
交付件数	９，１９５件（令和元年９月末時点）
利用回数	①ポイント精算　７４，６８０回 ②無料乗車　１１２，４００回 （令和元年９月末時点）

津市地域公共交通網形成計画の施策の点検

★津市地域公共交通活性化協議会に３つの分科会を設置し、各分科会にて（第１次）津市地域公共交通網形成計画の目標の達成状況、施策・事業の実施状況を評価

	評価テーマ
分科会Ａ	公共交通ネットワークの構築
分科会Ｂ	公共交通の利用促進
分科会Ｃ	地域住民との協働

	実施日	内容
第１回	令和元年５月１４日	現行計画の評価
第２回	令和元年７月１７日	次期計画で実施する事業等の確認

目標の達成状況の評価からの課題

・数値目標を設定するに当たっては、適切な目標設定が必要
・乗合バスの運行においては、運行本数の減少が利用者の減少に直結するため、運行本数を維持していくことが重要
・市民の意識向上への取組や情報提供が重要
（利用しなければ無くなってしまうという危機感の醸成）

施策の点検結果からの課題

・人口特性、国庫補助要件を踏まえた路線の見直し
・待合環境の持続的な整備
・分かりやすい広報
・紙媒体による情報提供
・ＪＲ名松線のパーク＆ライド、レンタサイクルのＰＲ
・観光施設への案内・モデルコースの作成等
・高齢者の外出目的の創出
・公共交通を担う人材育成（地域住民、運転手）

第２次計画における課題として引継ぐ

■ 地域公共交通確保維持改善計画における地域・ルート毎の目標値、実績値（平成２９年度比）

地域・ルート等	目標値	実績値	評価
久居地域	**116%**	**94.4%**	**B**
★稲葉ルート	120%	103.5%	B
★稲葉ふれあい会館ルート	110%	69.7%	C
★榊原ルート	120%	89.3%	B
★桃園ルート	110%	112.7%	A
★野村ルート	110%	120.4%	A
河芸地域	**110%**	**182.4%**	**A**
★河芸循環北ルート	110%	171.4%	A
★河芸循環南ルート	110%	195.5%	A
芸濃地域	**117%**	**167.2%**	**A**
★芸濃循環明ルート	110%	213.6%	A
★芸濃循環安西ルート	110%	142.3%	A
★芸濃循環雲林院ルート	130%	239.5%	A
★芸濃循環河内ルート	120%	121.5%	A
安濃地域	**121%**	**158.5%**	**A**
★明合ルート	130%	149.8%	A
安濃ルート	110%	211.6%	A
★草生ルート	120%	145.9%	A

地域・ルート等	目標値	実績値	評価
美里地域	**75%**	**91.6%**	**A**
★長野・高宮ルート	80%	102.4%	A
★辰水ルート	70%	82.2%	A
一志地域	**115%**	**122.4%**	**A**
★川合ルート	120%	148.3%	A
★高岡ルート	110%	100.5%	B
白山地域	**112%**	**104.6%**	**B**
家城ルート	110%	105.9%	B
城立ルート	110%	100.7%	B
白山循環三ケ野ルート	130%	123.2%	B
美杉地域	**107%**	**109.6%**	**A**
川上ルート	105%	98.5%	B
丹生俣ルート	110%	111.5%	A
逢坂・飼坂ルート	105%	201.7%	A
名張奥津線	101%	70%	C

評価基準	A	B	C
	目標値達成	目標値未満～目標値の８割	目標値の８割未満

★国庫補助に関するもの

■評価の実施日　令和元年１２月２４日（火）

■津市コミュニティバスが接続する幹線バスの利用実績

津市コミュニティバス	接続する幹線バス（輸送量/日）
★稲葉ルート	榊原線（A）（60.7人）
★稲葉ふれあい会館ルート	
★榊原ルート	榊原線（C）（21.4人）
★桃園ルート	
★野村ルート	
★河芸循環北ルート	津太陽の街線（15.1人）
★河芸循環南ルート	
★芸濃循環明ルート	椋本線（99.4人）
★芸濃循環安西ルート	
★芸濃循環雲林院ルート	亀山椋本線（16.7人）
★芸濃循環河内ルート	

津市コミュニティバス	接続する幹線バス（輸送量/日）
★芸濃循環雲林院ルート（再掲）	安濃線（29.8人）
★芸濃循環河内ルート（再掲）	
★明合ルート	
安濃ルート	
★草生ルート	
★長野・高宮ルート	長野線（39.2人）
★辰水ルート	
★辰水ルート（再掲）	辰水線（A）（15.3人）
★川合ルート	波瀬線（30.7人）
★高岡ルート	

★国庫補助に関するもの

■評価の実施日　令和元年１２月２４日（火）

補助落ちが懸念される幹線	対　策
津太陽の街線	・鈴鹿大学のスクールバスを一部振替
亀山椋本線	・亀山高校・ＪＲ沿線学校への通学案内チラシを近隣中学校へ配布 ・亀山市と連携した地元イベントでのＰＲ活動
辰水線（A）	・他の路線（殿舟団地線）との路線統合

各地域の現状と今後の対応

目標達成状況についての考察

地域	評価	現状考察	今後の対応
久居地域	B	民間路線バスとの運行の重複、生活実態に合わないダイヤ、地域を越えた移動ニーズ（津地域西部から）	民間路線バスとの役割分担の整理、生活実態に応じたダイヤ設定、津地域西部への乗り入れを推進
河芸地域	A	民間路線バスとの運行の重複、コミュニティバス同士の運行の重複、地域を越えた移動ニーズ（津地域北部へ）、利用の少ない廃止代替バス路線の存在（三行線）	民間路線バスとの役割分担の整理、コミュニティバス路線の整理、津地域北部への乗り入れ、廃止代替バス路線のコミュニティバス路線による代替を推進
芸濃地域	A	コミュニティバス同士の運行の重複、地域を越えた移動ニーズ（安濃地域から）、利用の少ない区間（河内地区）	コミュニティバス路線の整理、安濃地域を一体とした運行、利用の少ない区間における運行本数の見直しを推進
安濃地域	A	地域を越えた移動ニーズ（芸濃地域へ）、利用の少ない廃止代替バス路線の存在（安濃線立合系統）	芸濃地域を一体とした運行、廃止代替バス路線のコミュニティバス路線による代替を推進
美里地域	A	スクールバス導入による小・中学生の利用者減、地域を越えた移動ニーズ（久居地域東部へ）	運行本数の見直し、久居地域東部への移動需要に応じた地域間幹線系統との接続強化を推進
一志地域	A	地域、市域を越えた移動ニーズ（久居地域西部から、松阪市嬉野地区へ）	久居地域西部及び松阪市（嬉野地区）への乗り入れを推進
美杉地域	A	ＪＲ名松線との運行の重複、歴史・文化拠点（北畠氏城跡）への観光輸送ニーズ、利用の少ない区間（太郎生地区）	ＪＲ名松線との役割分担の整理、観光輸送への対応、デマンド交通導入に向けた協議を推進
全地域		人口減少、高齢化の進展	地域の枠に捉われずに路線の再編、需要に応じたサービス水準（運行本数）の設定、各種交通機関との役割分担の整理を推進

津市コミュニティバスの利便性向上に向けた取り組み

新たな取組	これまでの取組の継続
利用者のニーズに応じた新たな路線の検討	地域公共交通あり方検討会等を活用した地域の意見の反映
デマンド方式についての研究	新たな施設等への接続
	鉄道や幹線システムのダイヤ変更に合わせたダイヤの見直し

新たな取組	これまでの取組の継続
高齢者を対象とした『バスの乗り方教室』等	小学生を対象とした『バスの乗り方教室』
	津まつりでのブース出展
	バスの日の街頭啓発
	みえ交通安全・環境フェスタ
	ＭＭシステムを活用した啓発
	広報紙への『公共交通に関する記事』の掲載
	『津市高齢者外出支援事業』のＰＲ
	沿線学校へのチラシ設置等
	運転免許返納割引・運転免許返納割引定期券のチラシ設置（警察署、運転免許センター）

中部様式2

令和元年度　地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

津市地域公共交通活性化協議会

平成２０年8月２０日設置

フィーダー系統　平成３０年５月２９日　確保維持計画策定等

直近の第三者評価委員会における事業評価結果	事業評価結果の反映状況（具体的対応内容）	今後の対応方針
幹線の評価がどの路線もよろしくない結果となっている。他人事でなく、津市としてモニタリングする必要があるのではないか。	・幹線輸送量の数値は三重県から提供 ・地域公共交通あり方検討会や地域懇談会で地域のニーズを把握 ・定期的に亀山市との意見交換	・１日あたりの輸送量が補助対象基準の１５人を割り込む恐れのある路線を中心に、利用促進活動を継続 ・亀山市と連携し、亀山椋本線の啓発イベントを実施
美杉地域はＪＲ名松線の復旧と合わせて取り組みを実施する必要があったのではないか。	・復旧時：「伊勢鎌倉駅前」停留所を新設 ・復旧後：乗継に合わせたダイヤ改正、観光客向け土日祝日ダイヤの設定、沿線マップの作製等の魅力発信事業 ・地域住民による京丹後市への視察（デマンド交通）を実施 ・ＪＲ東海と連携し沿線イベントを実施	・名松線のより一層の利活用に向け、津市コミュニティバスのダイヤ及び路線の見直しを検討 ・ＪＲ名松線、廃止代替バス（多気線）、コミュニティバスの役割分担を整理 ・観光需要に応じた季節限定の臨時運行を実施
幹線、フィーダーともに現状の危機的状況に対する意識を持ち、当事者として対応施策に取り組んでほしい。	・津市高齢者外出支援事業を開始 ・Webを活用したモビリティマネジメントの実施 ・オーダーメイド時刻表『わたしの時刻表』の取組 ・隣接市と協力し、中学校や高校へチラシを配布	・高齢者を対象にした『バスの乗り方教室』や『啓発イベント』等を新たに実施

定例的な広報活動と
併せて利用者に応じた
バス利用促進啓発活動を
実施しました。

■高齢者を対象とした
バス利用促進啓発活動

・高齢者の寄合での啓発活動
・高齢者向け「バスの乗り方教室」

■隣接市と連携して
地域間幹線の活性化を図る

・通学者向けのＰＲチラシの作成・配布
・近隣市のイベントでの啓発活動

■イベント来場者に
バス利用促進のインセンティブ

・バスを利用してのイベント
来場者にお菓子プレゼント

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
津市	久居地域稲葉ルート 榊原出張所～三重中央医療センター～久居総合支所 第1号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 また、平成29年4月から榊原線の一部を津市廃止代替バスとして運行しているが、定常的な利用者が少ないため、コミュニティバス路線の再編、廃棄代替の見直しも含め今後検討していく。 地域の要望により、桃園ルートを商業施設への乗り入れを行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数（前年度比） 【平成29年度】 **久居地域全体　91.9%** ・稲葉ルート　98.8% ・稲葉ふれあい会館ルート　88.5% ・榊原ルート　95.4% ・桃園ルート　83.1% ・野村ルート　87.9% 【平成30年度】 **久居地域全体　112.9%** ・稲葉ルート　114.9% ・稲葉ふれあい会館ルート　148.1% ・榊原ルート　85.3% ・桃園ルート　114.5% ・野村ルート　122.6% 【平成31年度】 久居地域全体　93.2% ・稲葉ルート　90.1% ・稲葉ふれあい会館ルート　79.0% ・榊原ルート　104.7% ・桃園ルート　98.4% ・野村ルート　98.2% ●目標の達成状況 【平成29年度】 現状維持という目標を達成することができなかった。 【平成30年度】 前年度比100%という目標を達成することができた。 【平成31年度】 前年度比116%という目標を達成することができなかった。 ●考察 定常的な利用者の減少に対して新規利用者の増加が追いついてこなかったが、平成29年9月に開始した『津市高齢者外出支援事業』により、新規利用者、既存利用者の利用回数共に増加した。	平成29年9月からの『津市高齢者外出支援事業』の開始に伴い、地域全体としては利用者数の減少傾向に歯止めがかかったものの、榊原ルートにおいては減少傾向が続いていることから、地域懇談会等の活用により地域ニーズの把握に努め、利用者ニーズに合った運行となるよう、旧市町村域にとらわれずに路線等の見直しを図っていく。 また、榊原線の一部については、観光振興（榊原温泉）の観点から当面の間は廃止代替バスとしての運行を継続することとなったが、今後も榊原ルートと共に路線のあり方について検討していく。
津市	久居地域稲葉ふれあい会館ルート 稲葉ふれあい会館～三重中央医療センター～久居総合支所 第2号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
津市	久居地域榊原ルート 八知山～三重中央医療センター～久居総合支所 第3号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
津市	久居地域榊原ルート 久居総合支所～三重中央医療センター～安子公会所 第4号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
津市	久居地域桃園ルート 木造7区集会所～三重中央医療センター～久居総合支所 第5号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
津市	久居地域野村ルート 久居総合支所～三重中央医療センター～久居総合支所 第6号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
津市	河芸地域河芸循環北ルート 河芸総合支所～近鉄千里駅・千里ヶ丘団地東～河芸総合支所 第7号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数（前年度比） 【平成29年度】 **河芸地域全体　87.2%** ・河芸循環北ルート　91.6% ・河芸循環南ルート　82.5% 【平成30年度】 **河芸地域全体　144.6%** ・河芸循環北ルート　140.8% ・河芸循環南ルート　149.0% 【平成31年度】 河芸地域全体　126.2% ・河芸循環北ルート　121.7% ・河芸循環南ルート　131.2% ●目標の達成状況 【平成29年度】 現状維持という目標を達成することができなかった。 【平成30年度】 前年度比97%という目標を達成することができた。 【平成31年度】 前年度比110%という目標を達成することができた。 ●考察 定常的な利用者の減少に対して新規利用者の増加が追いついてこなかったが、平成29年9月に開始した『津市高齢者外出支援事業』により、新規利用者、既存利用者の利用回数共に増加した。	平成29年9月からの『津市高齢者外出支援事業』の開始に伴い、両路線共に利用者数は増加傾向にあることから、さらなる利用者の増加を目指し、河芸地域公共交通あり方検討会や地域懇談会の活用により地域ニーズの把握に努め、利用者ニーズに合った運行となるよう、旧市町村域にとらわれずに路線等の見直しを図っていく。 また、地域内での大規模な団地開発（杜の街）に合わせ、民間バス路線『太陽の街線』の運行経路等が一部変更されたことから、路線の一部が重複する河芸循環北ルートについても、路線のあり方を検討していく。
津市	河芸地域河芸循環南ルート 河芸総合支所～近鉄豊津上野駅・近鉄千里駅～河芸総合支所 第8号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
津市	芸濃地域芸濃循環明ルート 芸濃総合支所～中町・イオンタウン芸濃～芸濃総合支所 第9号系統	地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、スーパーには高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 また、住民ニーズに応じたバス停の移設等を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数（前年度比） 【平成29年度】 **芸濃地域全体　86.0%** ・芸濃循環明ルート　71.0% ・芸濃循環安西ルート　75.1% ・芸濃循環雲林院ルート　108.9% ・芸濃循環河内ルート　96.9% 【平成30年度】 **芸濃地域全体　162.7%** ・芸濃循環明ルート　161.2% ・芸濃循環安西ルート　152.2% ・芸濃循環雲林院ルート　226.9% ・芸濃循環河内ルート　140.0% 【平成31年度】 芸濃地域全体　102.7% ・芸濃循環明ルート　132.5% ・芸濃循環安西ルート　93.5% ・芸濃循環雲林院ルート　105.6% ・芸濃循環河内ルート　86.8% ●目標の達成状況 【平成29年度】 前年度比105%という目標を達成することができなかった。 【平成30年度】 前年度比102%という目標を達成することができた。 【平成31年度】 前年度比117%という目標を達成することができなかった。 ●考察 定常的な利用者の減少に対して新規利用者の増加が追いついてこなかったが、平成29年9月に開始した『津市高齢者外出支援事業』により、新規利用者、既存利用者の利用回数共に増加した。	平成29年9月からの『津市高齢者外出支援事業』の開始に伴い、全路線において利用者数は増加傾向にあることから、さらなる利用者の増加を目指し、芸濃地域公共交通あり方検討会や地域懇談会の活用により地域ニーズの把握に努め、利用者ニーズに合った運行となるよう、旧市町村域にとらわれずに路線等の見直しを図っていく。 また、地域内において新たな商業施設の出店が相次いでいることから、当該施設への乗り入れニーズの把握に努める。
津市	芸濃地域芸濃循環安西ルート 芸濃総合支所～イオンタウン芸濃・中町～芸濃総合支所 第11号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
津市	芸濃地域芸濃循環雲林院ルート 芸濃総合支所～市場・中町～芸濃総合支所 第12号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
津市	芸濃地域芸濃循環河内ルート 芸濃総合支所～市場・中町～芸濃総合支所 第13号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
津市	安濃地域明合ルート サンヒルズ安濃～曽根橋バス停前～サンヒルズ安濃 第14号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数（前年度比） 【平成29年度】 **安濃地域全体　98.1%** ・明合ルート　112.4% ・草生ルート　98.8% 【平成30年度】 **安濃地域全体　119.5%** ・明合ルート　131.3% ・草生ルート　110.5% 【平成31年度】 安濃地域全体　132.0% ・明合ルート　114.2% ・草生ルート　132.0% ●目標の達成状況 【平成29年度】 現状維持という目標を達成することができなかった。 【平成30年度】 前年度比101%という目標を達成することができた。 【平成31年度】 前年度比121%という目標を達成することができた。 ●考察 定常的な利用者の減少に対して新規利用者の増加が追いついてこなかったが、平成29年9月に開始した『津市高齢者外出支援事業』により、新規利用者、既存利用者の利用回数共に増加した。 また、安濃ルートは一運行あたり輸送量が2.0を下回り平成29年度からは補助対象外となっている。	平成29年9月からの『津市高齢者外出支援事業』の開始に伴い、両路線共に利用者数は増加傾向にあることから、さらなる利用者の増加を目指し、安濃地域公共交通あり方検討会や地域懇談会の活用により地域ニーズの把握に努め、利用者ニーズに合った運行となるよう、旧市町村域にとらわれずに路線等の見直しを図っていく。 また、隣接する芸濃地域において商業施設の出店が相次いでいることから、当該地域への移動ニーズの把握に努め、地域の枠組みにとらわれず芸濃地域と安濃地域を一体とした新たなコミュニティバス路線の再編を検討する。
津市	安濃地域草生ルート サンヒルズ安濃～曽根橋バス停前～サンヒルズ安濃 第17号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
三重交通株式会社	名張奥津線 飯垣内～敷津～奥津駅前 第1号系統	利用者数の少ない路線であるため、路線の廃止及び自家用有償旅客運送の導入について、美杉地域公共交通あり方検討会において、デマンド型交通を含め地域にあった公共交通の導入について協議を重ねている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数（前年比） 【平成29年度】 **100.0%** 【平成30年度】 **98.6%** **【平成31年度】 71.2%** ●目標の達成状況 【平成29年度】 現状維持との目標を達成することができた。 【平成30年度】 前年度比100%という目標を達成することができなかった。 【平成31年度】 前年度比101%という目標を達成することができなかった。 なお、一運行あたり輸送量が2.0を下回り、平成31年度は補助対象外となった。	一人あたりの輸送コストが高額となっていることから、引き続き美杉地域公共交通あり方検討会においてコミュニティバス化や新たな交通サービスの検討を含めた路線のあり方について協議していく。 （平成30年度以後は補助対象外）

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 川上～美杉総合支所前、竹原～一志病院 第3号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 地域からはデマンド交通の導入を希望する声が上がっているため、美杉地域公共交通あり方検討会にて、津市コミュニティバスのあり方について協議している。 ※川上ルートにおいては平成30年9月に発生した土砂災害により臨時の迂回コースにより運行していました。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数（前年度比） 【平成29年度】 **美杉地域全体　104.7%** ・川上ルート　102.4% ・丹生俣ルート　110.1% 【平成30年度】 **美杉地域全体　106.2%** ・川上ルート　102.7% ・丹生俣ルート　102.8% 【平成31年度】 美杉地域全体　103.2% ・川上ルート　95.9% ・丹生俣ルート　108.5% ●目標の達成状況 【平成29年度】 現状維持という目標を達成することができた。 【平成30年度】 前年度比95%という目標を達成することができた。 【平成31年度】 前年度比107%という目標を達成することができなかった。 ●考察 補助対象外の路線であるが、逢坂・飼坂ルートについては、平成29年4月に路線を延長し、同年10月には市外2箇所に停留所を新設したこともあり、利用者数は増加傾向にある。	平成29年9月からの『津市高齢者外出支援事業』の開始に伴い、両路線ともに利用者数は増加傾向にあることから、さらなる利用者の増加を目指し、美杉地域公共交通あり方検討会や地域懇談会の活用により地域ニーズの把握に努め、利用者ニーズに合った運行となるよう路線等の見直しを図っていく。 美杉地域公共交通あり方検討会での協議を進め、デマンド交通の導入を含めた津市コミュニティバスのあり方を検討していく。 また、豊かな自然や歴史ある神社等を有する地域であり、観光需要もあることから、補助対象外である『逢坂・飼坂ルート』を含め、観光への対応についても検討していく。
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 川上～エーコープJAみすぎ店前、美杉総合支所前、竹原～一志病院 第4号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 川上～エーコープJAみすぎ店前、美杉総合支所前～マックスバリュ（川口店） 第5号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 川上～美杉総合支所前、一志病院～マックスバリュ（川口店） 第6号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 丹生俣～竹原～一志病院 第7号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 丹生俣～竹原、一志病院～マックスバリュ（川口店） 第8号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
三重交通株式会社	美里地域コミュニティバス 平木～美里総合支所～湯の瀬 第9号系統	平成29年4月に小学校が統合し、新たにスクールバスが導入されたことから、利用者が減少している。 また、地域内にスーパーが無く、地域外への買い物需要があることから、移動ニーズの把握に努め津市コミュニティバス路線の再編を検討していく。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数（前年度比） 【平成29年度】 **美里地域全体　71.2%** ・長野・高宮ルート　83.6% ・辰水ルート　63.1% 【平成30年度】 **美里地域全体　84.3%** ・長野・高宮ルート　101.1% ・辰水ルート　69.6% 【平成31年度】 美里地域全体　108.7% ・長野・高宮ルート　101.3% ・辰水ルート　118.1% ●目標の達成状況 【平成29年度】 現状維持という目標を達成することができなかった。 【平成30年度】 前年度比93%という目標を達成することができなかった。 【平成31年度】 前年度比75%という目標を達成することができた。 ●考察 平成29年度スクールバス導入による利用者数が大幅に減少したが、現状維持出来た。	地域外への買い物需要に応えるべく、美里地域公共交通あり方検討会や地域懇談会の活用により地域ニーズの把握に努め、利用者ニーズに合った運行となるよう、旧市町村域にとらわれずに路線等の見直しを図っていく。 スクールバスの導入により小中学生の通学需要が無くなったことから、特に辰水ルートにおいて利用者の減少が著しいため、ルートや運行日数・運行便数の見直しについて、移動ニーズの把握に努め、コミュニティバス路線の再編の中で検討していく。
三重交通株式会社	美里地域コミュニティバス 平木～美里総合所、美里総合支所前～湯の瀬 第10号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
三重交通株式会社	美里地域コミュニティバス 美里総合支所～辰水農協前、稲葉口、美里総合支所～湯の瀬 第11号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
三重交通株式会社	美里地域コミュニティバス 美里総合支所～辰水農協前、稲葉口、美里総合支所前～湯の瀬 第12号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。			
株式会社一志運輸	一志地域川合ルート 姫路集会所～川合高岡駅～とことめの里一志 第1号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数（前年度比） 【平成29年度】 **一志地域全体　92.0%** ・川合ルート　99.4% ・高岡ルート　84.7% 【平成30年度】 **一志地域全体　121.8%** ・川合ルート　114.5% ・高岡ルート　130.3% 【平成31年度】 一志地域全体　100.5% ・川合ルート　87.8%	平成29年9月からの津市高齢者外出支援事業の開始により、両路線共に利用者数は増加傾向にあることから、さらなる利用者の増加を目指し、一志地域公共交通あり方検討会や地域懇談会の活用により地域ニーズの把握に努め、利用者ニーズに合った運行となるよう、旧市町村域にとらわれずに路線等の見直しを図っていく。 なお、かねてより隣接する松阪市内にある伊勢中川駅への運行を希望する声も上がっていることから、移動ニーズの把握に努め、コミュニティバス路線の再編の中で検討していく。

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
株式会社一志運輸	一志地域高岡ルート とことめの里一志～石橋駅・川合高岡駅～とことめの里一志 第2号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。		・高岡ルート　113.8% ●目標の達成状況 【平成29年度】 前年度比105%という目標を達成することができなかった。 【平成30年度】 前年度比102%という目標を達成することができた。 【平成31年度】 前年度比115%という目標を達成することができなかった。 ●考察 定常的な利用者の減少に対して新規利用者の増加が追いついてこなかったが、平成29年9月に開始した『津市高齢者外出支援事業』により、新規利用者、既存利用者の利用回数共に増加した。	
津市	久居地域稲葉ルート 榊原出張所～三重中央医療センター～久居総合支所 第1号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・稲葉ルート　103.5% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比120%という目標を達成することができなかった。 ●考察 「高齢者外出支援事業」により一時利用者が増加したが、新規利用者の増加が伸びずわずかしか増加しなかった。	平成29年度からの『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体としては利用者数の減少傾向に歯止めがかかったものの、その後は予想以上に伸びなかった。 今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った急市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。
津市	久居地域稲葉ふれあい会館ルート 稲葉ふれあい会館～三重中央医療センター～久居総合支所 第2号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・稲葉ふれあい会館ルート69.7% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比110%という目標を達成することができなかった。 ●考察 定常的な利用者の大幅な減少に対して、『津市高齢者外出支援事業』による新規利用者の増加が追いついてこなかった。	平成29年度からの『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体としては利用者数の減少傾向に歯止めがかかったものの、その後は予想以上に伸びなかった。 今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った急市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。
津市	久居地域榊原ルート 八知山～三重中央医療センター～久居総合支所 第3号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・榊原ルート　89.3% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比120%という目標を達成することができなかった。 ●考察 定常的な利用者の大幅な減少に対して、『津市高齢者外出支援事業』による新規利用者の増加が追いついてこなかった。	平成29年度からの『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体としては利用者数の減少傾向に歯止めがかかったものの、その後は予想以上に伸びなかった。 今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った急市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
津市	久居地域榊原ルート 久居総合支所～三重中央医療センター～安子公会所 第4号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・榊原ルート　89.3% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比120%という目標を達成することができなかった。 ●考察 定常的な利用者の大幅な減少に対して、『津市高齢者外出支援事業』による新規利用者の増加が追いついてこなかった。	平成29年度からの『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体としては利用者数の減少傾向に歯止めがかかったものの、その後は予想以上に伸びなかった。 今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った急市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。
津市	久居地域桃園ルート 木造7区集会所～三重中央医療センター～久居総合支所 第5号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。 地域の要望により、桃園ルートを商業施設への乗り入れを行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・桃園ルート　112.7% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比110%という目標を達成することができた ●考察 平成29年9月に開始した『津市高齢者外出支援事業』により利用者が増加した。	平成29年度からの『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体としては利用者数の減少傾向に歯止めがかかったものの、その後は予想以上に伸びなかった。 今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った急市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。
津市	久居地域野村ルート 久居総合支所～三重中央医療センター～久居総合支所 第6号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・野村ルート　120.4% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比110%という目標を達成することができた。 ●考察 平成29年9月に開始した『津市高齢者外出支援事業』により利用者が増加した。	平成29年度からの『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体としては利用者数の減少傾向に歯止めがかかったものの、その後は予想以上に伸びなかった。 今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った急市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。
久居地域			A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） 久居地域全体　94.4% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比116%という目標を達成することができなかった。	
津市	河芸地域河芸循環北ルート 河芸総合支所～近鉄千里駅・千里ヶ丘団地東～河芸総合支所 第7号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。 商業施設の閉店により停留所が閉鎖されたため、路線の変更を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数（前年度比） 【平成31年度】 ・河芸循環北ルート　171.4% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比110%という目標を達成することができた。 ●考察 定常的な利用者の減少が続いていたが、平成29年度から開始した『津市高齢者外出支援事業』により利用者が増加した。	今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った旧市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
津市	河芸地域河芸循環南ルート 河芸総合支所～近鉄豊津上野駅・近鉄千里駅～河芸総合支所 第8号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。 商業施設の閉店により停留所が閉鎖されたため、路線の変更を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数（前年度比） 【平成31年度】 ・河芸循環南ルート　195.5% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比110%という目標を達成することができた。 ●考察 定常的な利用者の減少が続いていたが、平成29年度から開始した『津市高齢者外出支援事業』により利用者が増加した。	今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った旧市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。
河芸地域			A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数（前々年度比） 【平成31年度】 河芸地域全体　182.4% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比110%という目標を達成することができた。	
津市	芸濃地域芸濃循環明ルート 芸濃総合支所～中町・イオンタウン芸濃～芸濃総合支所 第9号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。 また、住民ニーズに応じたバス停の移設等を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・芸濃循環明ルート　213.6% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比110%という目標を達成することができた。 ●考察 住民ニーズに応じたバス停の移設等を行うとともに、平成29年度から開始した『津市高齢者外出支援事業』により利用者が増加した。	平成29年度からの『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体としては利用者数の減少傾向に歯止めがかかった。 今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った旧市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。
津市	芸濃地域芸濃循環安西ルート 芸濃総合支所～イオンタウン芸濃・中町～芸濃総合支所 第11号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・芸濃循環安西ルート　142.3% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比110%という目標を達成することができた。 ●考察 定常的な利用者の減少が続いていたが、平成29年度から開始した『津市高齢者外出支援事業』により利用者が増加した。	平成29年度からの『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体としては利用者数の減少傾向に歯止めがかかった。 今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った旧市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。
津市	芸濃地域芸濃循環雲林院ルート 芸濃総合支所～市場・中町～芸濃総合支所 第12号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。 また、住民ニーズに応じたバス停の新設及び移設を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・芸濃循環雲林院ルート　239.5% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比130%という目標を達成することができた。 ●考察 住民ニーズに応じたバス停の新設及び移設を行うとともに、平成29年9月に開始した『津市高齢者外出支援事業』により、新規利用者、既存利用者の利用回数共に増加した。	平成29年度からの『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体としては利用者数の減少傾向に歯止めがかかった。 今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った旧市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
津市	芸濃地域芸濃循環河内ルート 芸濃総合支所～市場・中町～芸濃総合支所 第13号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。 また、住民ニーズに応じたバス停の新設を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・芸濃循環河内ルート　121.5% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比120%という目標を達成することができた。 ●考察 住民ニーズに応じたバス停の新設を行うとともに、平成29年9月に開始した『津市高齢者外出支援事業』により、新規利用者、既存利用者の利用回数共に増加した。	平成29年度からの『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体としては利用者数の減少傾向に歯止めがかかった。 今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った旧市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。
芸濃地域			A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） 芸濃地域全体　167.2% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比117%という目標を達成することができた。	
津市	安濃地域明合ルート サンヒルズ安濃～曽根橋バス停前～サンヒルズ安濃 第14号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・明合ルート　149.8% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比130%という目標を達成することができた。 ●考察 平成29年9月に開始した『津市高齢者外出支援事業』により、新規利用者、既存利用者の利用回数共に増加した。	平成29年度からの『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体としては利用者数の減少傾向に歯止めがかかった。 今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った旧市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。
津市	安濃地域草生ルート サンヒルズ安濃～曽根橋バス停前～サンヒルズ安濃 第17号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・草生ルート　132.0% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比110%という目標を達成することができた。 ●考察 平成29年9月に開始した『津市高齢者外出支援事業』により、新規利用者、既存利用者の利用回数共に増加した。	平成29年度からの『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体としては利用者数の減少傾向に歯止めがかかった。 今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った旧市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。
安濃地域			A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） 安濃地域全体　158.5% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比121%という目標を達成することができた。	

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
三重交通株式会社	名張奥津線 飯垣内～敷津～奥津駅前 第1号系統	利用者数の少ない路線であるため、路線の廃止及び自家用有償旅客運送の導入について、美杉地域公共交通あり方検討会において、デマンド型交通を含め地域にあった公共交通の導入について協議を重ねている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	●利用者数（前々年度比） **【平成31年度】 71.2%** ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比101%という目標を達成することができなかった。 なお、一運行あたり輸送量が2.0を下回り、平成31年度は補助対象外となった。	一人あたりの輸送コストが高額となっていることから、引き続き美杉地域公共交通あり方検討会においてコミュニティバス化や新たな交通サービスの検討を含めた路線のあり方について協議していく。 （平成30年度以後は補助対象外）
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 川上～美杉総合支所前、竹原～一志病院 第3号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。 ※川上ルートにおいては平成30年9月に発生した土砂災害により臨時の迂回コースにより運行していました。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・川上ルート 98.5% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比105%という目標を達成することができなかった。 ●考察 平成29年9月に開始した『津市高齢者外出支援事業』の効果ガあったものの人口減少、超高齢化が進み、利用者自体ガ減少している。	平成29年度からの 『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体としては利用者数の減少傾向に歯止めがかかったものの、その後は予想以上に伸びなかった。 今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った急市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。 美杉地域公共交通あり方検討会での協議を進め、デマンド交通の導入を含めた津市コミュニティバスのあり方を検討していく。 また、豊かな自然や歴史ある神社等を有する地域であり、観光需要もあることから、補助対象外である『逢坂・飼坂ルート』を含め、観光への対応についても検討していく。
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 川上～エーコープJAみすぎ店前、美杉総合支所前、竹原～一志病院 第4号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。 ※川上ルートにおいては平成30年9月に発生した土砂災害により臨時の迂回コースにより運行していました。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・川上ルート 98.5% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比105%という目標を達成することができなかった。 ●考察 平成29年9月に開始した『津市高齢者外出支援事業』の効果ガあったものの人口減少、超高齢化が進み、利用者自体ガ減少している。	平成29年度からの 『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体としては利用者数の減少傾向に歯止めがかかったものの、その後は予想以上に伸びなかった。 今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った急市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。 美杉地域公共交通あり方検討会での協議を進め、デマンド交通の導入を含めた津市コミュニティバスのあり方を検討していく。 また、豊かな自然や歴史ある神社等を有する地域であり、観光需要もあることから、補助対象外である『逢坂・飼坂ルート』を含め、観光への対応についても検討していく。
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 川上～エーコープJAみすぎ店前、美杉総合支所前～マックスバリュ（川口店） 第5号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。 ※川上ルートにおいては平成30年9月に発生した土砂災害により臨時の迂回コースにより運行していました。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・川上ルート 98.5% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比105%という目標を達成することができなかった。 ●考察 定常的な利用者の減少に対して新規利用者の増加が追いついてこなかったが、平成29年9月に開始した『津市高齢者外出支援事業』により若干緩和され前年並みの利用者となった。	平成29年度からの 『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体としては利用者数の減少傾向に歯止めがかかったものの、その後は予想以上に伸びなかった。 今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った急市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。 美杉地域公共交通あり方検討会での協議を進め、デマンド交通の導入を含めた津市コミュニティバスのあり方を検討していく。 また、豊かな自然や歴史ある神社等を有する地域であり、観光需要もあることから、補助対象外である『逢坂・飼坂ルート』を含め、観光への対応についても検討していく。

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 川上～美杉総合支所前、一志病院～マックスバリュ（川口店） 第6号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。 ※川上ルートにおいては平成30年9月に発生した土砂災害により臨時の迂回コースにより運行していました。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・川上ルート　98.5% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比105%という目標を達成することができなかった。 ●考察 平成29年9月に開始した『津市高齢者外出支援事業』の効果ガあったものの人口減少、超高齢化が進み、利用者自体ガ減少している。	平成29年9月からの『津市高齢者外出支援事業』の開始に伴い、両路線ともに利用者数は増加傾向にあることから、さらなる利用者の増加を目指し、美杉地域公共交通あり方検討会や地域懇談会の活用により地域ニーズの把握に努め、利用者ニーズに合った運行となるよう路線等の見直しを図っていく。 美杉地域公共交通あり方検討会での協議を進め、デマンド交通の導入を含めた津市コミュニティバスのあり方を検討していく。 また、豊かな自然や歴史ある神社等を有する地域であり、観光需要もあることから、補助対象外である『逢坂・飼坂ルート』を含め、観光への対応についても検討していく。
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 丹生俣～竹原～一志病院 第7号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・丹生俣ルート　111.5% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比110%という目標を達成することができた。 ●考察 補助対象外の路線であるが、逢坂・飼坂ルートについては、川上ルートの臨時災害ルートとして一部ルートを代替したこともあり、、利用者数は増加傾向にある。	平成29年度からの 『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体としては利用者数の減少傾向に歯止めがかかったものの、その後は予想以上に伸びなかった。 今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った急市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。 美杉地域公共交通あり方検討会での協議を進め、デマンド交通の導入を含めた津市コミュニティバスのあり方を検討していく。 また、豊かな自然や歴史ある神社等を有する地域であり、観光需要もあることから、補助対象外である『逢坂・飼坂ルート』を含め、観光への対応についても検討していく。
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 丹生俣～竹原、一志病院～マックスバリュ（川口店） 第8号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・丹生俣ルート　111.5% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比110%という目標を達成することができた。 ●考察 定常的な利用者の減少に対して新規利用者の増加が追いついてこなかったが、平成29年9月に開始した『津市高齢者外出支援事業』により、新規利用者、既存利用者の利用回数共に増加した。	平成29年度からの 『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体としては利用者数の減少傾向に歯止めがかかったものの、その後は予想以上に伸びなかった。 今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った急市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。 美杉地域公共交通あり方検討会での協議を進め、デマンド交通の導入を含めた津市コミュニティバスのあり方を検討していく。 また、豊かな自然や歴史ある神社等を有する地域であり、観光需要もあることから、補助対象外である『逢坂・飼坂ルート』を含め、観光への対応についても検討していく。
美杉地域			A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） 美杉地域全体　109.6% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比107%という目標を達成することができた。 ●考察 補助対象外の路線であるが、逢坂・飼坂ルートについては、川上ルートの臨時災害ルートとして一部ルートを代替したこともあり、、利用者数は増加傾向にある。	

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
三重交通株式会社	美里地域コミュニティバス 平木～美里総合支所～湯の瀬 第9号系統	平成29年4月に小学校が統合し、新たにスクールバスが導入されたことから、利用者が減少している。 また、地域内にスーパーが無く、地域外への買い物需要があることから、移動ニーズの把握に努め津市コミュニティバス路線の再編を検討していく。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・長野・高宮ルート　102.4% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比80%という目標を達成することができた。 ●考察 平成29年度スクールバス導入による利用者数が大幅に減少したが、現状維持出来た。	平成29年9月からの『津市高齢者外出支援事業』の開始に伴い、両路線共に利用者数は増加傾向にあることから、さらなる利用者の増加を目指し、安濃地域公共交通あり方検討会や地域懇談会の活用により地域ニーズの把握に努め、利用者ニーズに合った運行となるよう、旧市町村域にとらわれずに路線等の見直しを図っていく。
三重交通株式会社	美里地域コミュニティバス 平木～美里総合所、美里総合支所前～湯の瀬 第10号系統	平成29年4月に小学校が統合し、新たにスクールバスが導入されたことから、利用者が減少している。 また、地域内にスーパーが無く、地域外への買い物需要があることから、移動ニーズの把握に努め津市コミュニティバス路線の再編を検討していく。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・長野・高宮ルート　102.4% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年比80%という目標を達成することができた。 ●考察 平成29年度スクールバス導入による利用者数が大幅に減少したが、現状維持出来た。	平成29年9月からの『津市高齢者外出支援事業』の開始に伴い、両路線共に利用者数は増加傾向にあることから、さらなる利用者の増加を目指し、安濃地域公共交通あり方検討会や地域懇談会の活用により地域ニーズの把握に努め、利用者ニーズに合った運行となるよう、旧市町村域にとらわれずに路線等の見直しを図っていく。
三重交通株式会社	美里地域コミュニティバス 美里総合支所～辰水農協前、稲葉口、美里総合支所～湯の瀬 第11号系統	平成29年4月に小学校が統合し、新たにスクールバスが導入されたことから、利用者が減少している。 また、地域内にスーパーが無く、地域外への買い物需要があることから、移動ニーズの把握に努め津市コミュニティバス路線の再編を検討していく。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・辰水ルート　118.1% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年比70%という目標を達成することができた。 ●考察 平成29年度スクールバス導入による利用者数が大幅に減少している。	平成29年9月からの『津市高齢者外出支援事業』の開始に伴い、両路線共に利用者数は増加傾向にあることから、さらなる利用者の増加を目指し、安濃地域公共交通あり方検討会や地域懇談会の活用により地域ニーズの把握に努め、利用者ニーズに合った運行となるよう、旧市町村域にとらわれずに路線等の見直しを図っていく。
三重交通株式会社	美里地域コミュニティバス 美里総合支所～辰水農協前、稲葉口、美里総合支所前～湯の瀬 第12号系統	平成29年4月に小学校が統合し、新たにスクールバスが導入されたことから、利用者が減少している。 また、地域内にスーパーが無く、地域外への買い物需要があることから、移動ニーズの把握に努め津市コミュニティバス路線の再編を検討していく。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・辰水ルート　118.1% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年比70%という目標を達成することができた。 ●考察 平成29年度スクールバス導入による利用者数が大幅に減少している。	平成29年9月からの『津市高齢者外出支援事業』の開始に伴い、両路線共に利用者数は増加傾向にあることから、さらなる利用者の増加を目指し、安濃地域公共交通あり方検討会や地域懇談会の活用により地域ニーズの把握に努め、利用者ニーズに合った運行となるよう、旧市町村域にとらわれずに路線等の見直しを図っていく。
美里地域			A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） 美里地域全体　91.6% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年比75%という目標を達成することができた。 ●考察 平成29年度スクールバス導入による利用者数が大幅に減少している。	

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
株式会社一志運輸	一志地域川合ルート 姫路集会所～川合高岡駅～とことめの里一志 第1号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数（前年度比） 【平成31年度】（前々年度比） ・川合ルート　148.3% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比120%という目標を達成することができた。 ●考察 定常的な利用者の減少が続いていたが、平成29年度から開始した『津市高齢者外出支援事業』により利用者が増加した。	平成29年度からの『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体としては利用者数の減少傾向に歯止めがかかった。 今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った旧市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。
株式会社一志運輸	一志地域高岡ルート とことめの里一志～石橋駅・川合高岡駅～とことめの里一志 第2号系統	津市コミュニティバス時刻表を配布するとともに、地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示を行った。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数（前年度比） 【平成31年度】（前々年度比） ・高岡ルート　100.5% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比110%という目標を達成することができなかった。 ●考察 定常的な利用者の減少が続いていたが、平成29年度から開始した『津市高齢者外出支援事業』により利用者が前年度並みとなった。	平成29年度からの『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体としては利用者数の減少傾向に歯止めがかかった。 今後は、アンケート等などにより地域ニーズの把握に努め、利用者需要に合った旧市町村の枠にとらわれない運行となるよう路線等の見直しを図っていく。
一志地域			A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数（前年度比） 【平成31年度】（前々年度比） 一志地域全体　122.4% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比115%という目標を達成することができた。 ●考察 定常的な利用者の減少が続いていたが、平成29年度から開始した『津市高齢者外出支援事業』により利用者が増加した。	
津市	久居地域稲葉ルート 榊原出張所～三重中央医療センター～久居総合支所 第1号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・稲葉ルート　103.5% ●目標の達成状況 前々年度比120%という目標を達成することができなかった。 ●考察 「高齢者外出支援事業」により一時利用者が増加したが、新規利用者の増加が伸びなかった。	利用者数は横ばいであるが、三重交通の地域間幹線系統（榊原線）と運行が重複している上、1日当たりの運行回数が1往復と少なく日常生活に対応できていないことから、各路線の役割分担を明確にした上で、旧市町村の枠にとらわれずに路線及びサービス水準を見直していく。

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
津市	久居地域稲葉ふれあい会館ルート 稲葉ふれあい会館～三重中央医療センター～久居総合支所 第2号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・稲葉ふれあい会館ルート69.7% ●目標の達成状況 前々年度比110%という目標を達成することができなかった。 ●考察 定常的な利用者の大幅な減少に対して、新規利用者の増加が追いついてこなかった。	利用者数が大きく減少している上、三重交通の地域間幹線系統（榊原線）と運行が重複しており、さらには1日当たりの運行回数が1往復と少なく日常生活に対応できていないことから、各路線の役割分担を明確にした上で、旧市町村の枠にとらわれずに路線及びサービス水準を見直していく。
津市	久居地域榊原ルート 八知山～三重中央医療センター～久居総合支所 第3号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 地域からの要望により、「笠取の里前」停留所を新設し、周辺の運行ルートを変更した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・榊原ルート　89.3% ●目標の達成状況 前々年度比120%という目標を達成することができなかった。 ●考察 定常的な利用者の大幅な減少に対して、新規利用者の増加が追いついてこなかった。	利用者数が減少している上、三重交通の地域間幹線系統（榊原線）と運行が重複しており、さらには1日当たりの運行回数が1往復と少なく日常生活に対応できていないことから、各路線の役割分担を明確にした上で、旧市町村の枠にとらわれずに路線及びサービス水準を見直していく。
津市	久居地域榊原ルート 久居総合支所～三重中央医療センター～安子公会所 第4号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 地域からの要望により、「笠取の里前」停留所を新設し、周辺の運行ルートを変更した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・榊原ルート　89.3% ●目標の達成状況 前々年度比120%という目標を達成することができなかった。 ●考察 定常的な利用者の大幅な減少に対して、新規利用者の増加が追いついてこなかった。	利用者数が減少している上、三重交通の地域間幹線系統（榊原線）と運行が重複しており、さらには1日当たりの運行回数が1往復と少なく日常生活に対応できていないことから、各路線の役割分担を明確にした上で、旧市町村の枠にとらわれずに路線及びサービス水準を見直していく。
津市	久居地域桃園ルート 木造7区集会所～三重中央医療センター～久居総合支所 第5号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 地域からの要望により、スーパーへの乗り入れを行った上で、「プライスカット久居元町店」停留所を新設した。 アンケートにより、桃園地区から津地域南部への買い物ニーズがあることを把握した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・桃園ルート　112.7% ●目標の達成状況 前々年度比110%という目標を達成することができた。	利用者数は増加したものの、地域を越えた移動ニーズがある上、1日当たりの運行回数が1往復と少なく日常生活に対応できていないことから、旧市町村の枠にとらわれずに路線及びサービス水準を見直していく。
津市	久居地域野村ルート 久居総合支所～三重中央医療センター～久居総合支所 第6号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 アンケートにより、立成地区から津地域南部への買い物ニーズがあることを把握した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・野村ルート　120.4% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比110%という目標を達成することができた。 ●考察 平成29年9月に開始した『津市高齢者外出支援事業』により利用者が増加した。	利用者数は増加したものの、地域を越えた移動ニーズがある上、1日当たりの運行回数が1往復と少なく日常生活に対応できていないことから、旧市町村の枠にとらわれずに路線及びサービス水準を見直していく。

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
久居地域		廃止代替路線の榊原線（末端区間）について、著しく利用が少ないことから、運行の見直しについて地域と協議してきた。 アンケートにより、津地域西部から久居地域東部への買い物・通院ニーズがあることを把握した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） 久居地域全体　94.4% ●目標の達成状況 前々年度比116%という目標を達成することができなかった。 ●考察 定常的な利用者の大幅な減少に対して、新規利用者の増加が追いついてこなかった。	地域全体として利用者数が減少している上、三重交通路線との重複やサービス水準が生活実態に対応できていないといった問題や地域を越えた移動ニーズが明らかとなったことから、久居地域公共交通あり方検討会や地域懇談会により詳細なニーズを把握しつつ、旧市町村の枠にとらわれずに路線及びサービス水準を見直していく。
津市	河芸地域河芸循環北ルート 河芸総合支所～近鉄千里駅・千里ヶ丘団地東～河芸総合支所 第7号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 商業施設の閉店による停留所の廃止に合わせ、鉄道への乗り継ぎに合わせたダイヤ調整を実施した。 運行変更を周知すべく、各戸に運行に係るチラシを配布した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数（前々年度比） 【平成31年度】 ・河芸循環北ルート　171.4% ●目標の達成状況 前々年度比110%という目標を達成することができた。	利用者数は増加したものの、三重交通の地域間幹線系統（津太陽の街線）と運行が一部重複していることから、各路線の役割分担を明確にした上で、路線を見直していく。
津市	河芸地域河芸循環南ルート 河芸総合支所～近鉄豊津上野駅・近鉄千里駅～河芸総合支所 第8号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 商業施設の閉店による停留所の廃止に合わせ、鉄道への乗り継ぎに合わせたダイヤ調整を実施した。 運行変更を周知すべく、各戸に運行に係るチラシを配布した。 アンケートにより、黒田地区から津地域北部への買い物ニーズがあることを把握した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数（前々年度比） 【平成31年度】 ・河芸循環南ルート　195.5% ●目標の達成状況 前々年度比110%という目標を達成することができた。	利用者数は増加したものの、他のコミュニティバス（河芸循環北ルート）と運行が一部重複している上、地域を越えた移動ニーズがあることから、各路線の役割分担を明確にした上で、旧市町村の枠にとらわれずに路線を見直していく。
河芸地域			A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数（前々年度比） 【平成31年度】 河芸地域全体　182.4% ●目標の達成状況 前々年度比110%という目標を達成することができた。	平成29年度からの『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体として利用者数の減少傾向に歯止めがかかったが、路線の重複といった問題や地域を越えた移動ニーズが明らかとなったことから、河芸地域公共交通あり方検討会や地域懇談会により詳細なニーズを把握しつつ、旧市町村の枠にとらわれずに路線及びサービス水準を見直していく。

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
津市	芸濃地域芸濃循環明ルート 芸濃総合支所～中町・イオンタウン芸濃～芸濃総合支所 第9号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 地域からの要望により、「林南」停留所及び「椋本新町東」停留所を新設し、周辺の運行ルートを変更した。 運行変更を周知すべく、各戸に運行に係るチラシを配布した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・芸濃循環明ルート　213.6% ●目標の達成状況 前々年度比110%という目標を達成することができた。	利用者数は増加したものの、地域の中心部において他のコミュニティバスと運行が重複しており、中心部とそれ以外とでサービス水準に格差が生じていることから、サービス水準の平準化を図るべく路線を見直していく。
津市	芸濃地域芸濃循環安西ルート 芸濃総合支所～イオンタウン芸濃・中町～芸濃総合支所 第11号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 アンケートにより、隣接する安濃地域からの買い物ニーズがあることを把握した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・芸濃循環安西ルート　142.3% ●目標の達成状況 前々年度比110%という目標を達成することができた。	利用者数は増加したものの、地域外からの移動ニーズがある上、地域の中心部において他のコミュニティバスと運行が重複しており、中心部とそれ以外とでサービス水準に格差が生じていることから、移動ニーズの実現及びサービス水準の平準化を図るべく地域の枠にとらわれずに路線を見直していく。
津市	芸濃地域芸濃循環雲林院ルート 芸濃総合支所～市場・中町～芸濃総合支所 第12号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 地域からの要望により、「西部ヶ丘」停留所及び「椋本新町東」停留所を新設し、周辺の運行ルートを変更した。 運行変更を周知すべく、各戸に運行に係るチラシを配布した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・芸濃循環雲林院ルート　239.5% ●目標の達成状況 前々年度比130%という目標を達成することができた。	利用者数は増加したものの、地域の中心部において他のコミュニティバスと運行が重複しており、中心部とそれ以外とでサービス水準に格差が生じていることから、サービス水準の平準化を図るべく路線を見直していく。
津市	芸濃地域芸濃循環河内ルート 芸濃総合支所～市場・中町～芸濃総合支所 第13号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 地域からの要望により、「西部ヶ丘」停留所を新設し、周辺の運行ルートを変更した。 運行変更を周知すべく、各戸に運行に係るチラシを配布した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・芸濃循環河内ルート　121.5% ●目標の達成状況 前々年度比120%という目標を達成することができた。	利用者数は増加したものの、地域の中心部において他のコミュニティバスと運行が重複しており、中心部とそれ以外とでサービス水準に格差が生じている上、著しく利用者の少ない区間が存在することから路線及びサービス水準を見直していく。

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
芸濃地域			A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） 芸濃地域全体　167.2% ●目標の達成状況 前々年度比117%という目標を達成することができた。	平成29年度からの『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体として利用者数の減少傾向に歯止めがかかったが、路線の重複といった問題や地域を越えた移動ニーズ（安濃地域から芸濃地域）が明らかとなったことから、芸濃地域公共交通あり方検討会や地域懇談会により詳細なニーズを把握しつつ、旧市町村の枠にとらわれずに路線及びサービス水準を見直していく。
津市	安濃地域明合ルート サンヒルズ安濃～曽根橋バス停前～サンヒルズ安濃 第14号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 アンケートにより、芸濃地域への買い物ニーズがあることを把握した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・明合ルート　149.8% ●目標の達成状況 前々年度比130%という目標を達成することができた。	利用者数は増加したものの、芸濃地域への移動ニーズがあることから、地域の枠にとらわれずに路線を見直していく。
津市	安濃地域草生ルート サンヒルズ安濃～曽根橋バス停前～サンヒルズ安濃 第17号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 地域からの要望により、「F前野橋」停留所を新設した。 アンケートにより、芸濃地域への買い物ニーズがあることを把握した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・草生ルート　132.0% ●目標の達成状況 前々年度比110%という目標を達成することができた。	利用者数は増加したものの、芸濃地域への移動ニーズがあることから、地域の枠にとらわれずに路線を見直していく。
安濃地域			A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） 安濃地域全体　158.5% ●目標の達成状況 前々年度比121%という目標を達成することができた。	平成29年度からの『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体として利用者数の減少傾向に歯止めがかかったが、地域を越えた移動ニーズが明らかとなったことから、安濃地域公共交通あり方検討会や地域懇談会により詳細なニーズを把握しつつ、旧市町村の枠にとらわれずに路線を見直していく。
三重交通株式会社	名張奥津線 飯垣内～敷津～奥津駅前 第1号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 地域からはデマンド交通の導入を希望する声が上がっているため、美杉地域公共交通あり方検討会にて、津市コミュニティバスのあり方について協議している。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	C	●利用者数（前々年度比） **【平成31年度】 71.2%** ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比101%という目標を達成することができなかった。 ●考察 人口減少、高齢化が特に進んでいる地域であり、利用者数が大きく減少した。	利用者が極めて少なく、1人あたりの輸送コストが高額であることから、路線の廃止及び津市コミュニティバス等による代替を推進する。 （平成30年度以後は1回当たりの輸送量が2.0を下回ったため、補助対象外）

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 川上～美杉総合支所前、竹原～一志病院 第3号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 地域からはデマンド交通の導入を希望する声が上がっているため、美杉地域公共交通あり方検討会にて、津市コミュニティバスのあり方について協議している。 ※　土砂災害により、平成30年12月3日以降は臨時で迂回コースを運行	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・川上ルート　98.5% ●目標の達成状況 前々年度比105%という目標を達成することができなかった。 ●考察 地域の人口減少及び高齢化の進展並びに土砂災害による迂回運行により利用者数が減少した。	利用者数は横ばいであるが、JR名松線と運行が重複していることから、各路線の役割分担を明確にした上で、路線を見直していく。 美杉地域公共交通あり方検討会におけるデマンド交通導入に向けた協議を継続していく。
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 川上～エーコープJAみすぎ店前、美杉総合支所前、竹原～一志病院 第4号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 地域からはデマンド交通の導入を希望する声が上がっているため、美杉地域公共交通あり方検討会にて、津市コミュニティバスのあり方について協議している。 ※　土砂災害により、平成30年12月3日以降は臨時で迂回コースを運行	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・川上ルート　98.5% ●目標の達成状況 前々年度比105%という目標を達成することができなかった。 ●考察 地域の人口減少及び高齢化の進展並びに土砂災害による迂回運行により利用者数が減少した。	利用者数は横ばいであるが、JR名松線と運行が重複していることから、各路線の役割分担を明確にした上で、路線を見直していく。 美杉地域公共交通あり方検討会におけるデマンド交通導入に向けた協議を継続していく。
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 川上～エーコープJAみすぎ店前、美杉総合支所前～マックスバリュ（川口店） 第5号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 地域からはデマンド交通の導入を希望する声が上がっているため、美杉地域公共交通あり方検討会にて、津市コミュニティバスのあり方について協議している。 ※　土砂災害により、平成30年12月3日以降は臨時で迂回コースを運行	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・川上ルート　98.5% ●目標の達成状況 前々年度比105%という目標を達成することができなかった。 ●考察 地域の人口減少及び高齢化の進展並びに土砂災害による迂回運行により利用者数が減少した。	利用者数は横ばいであるが、JR名松線と運行が重複していることから、各路線の役割分担を明確にした上で、路線を見直していく。 美杉地域公共交通あり方検討会におけるデマンド交通導入に向けた協議を継続していく。
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 川上～美杉総合支所前、一志病院～マックスバリュ（川口店） 第6号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 地域からはデマンド交通の導入を希望する声が上がっているため、美杉地域公共交通あり方検討会にて、津市コミュニティバスのあり方について協議している。 ※　土砂災害により、平成30年12月3日以降は臨時で迂回コースを運行	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・川上ルート　98.5% ●目標の達成状況 前々年度比105%という目標を達成することができなかった。 ●考察 地域の人口減少及び高齢化の進展並びに土砂災害による迂回運行により利用者数が減少した。	利用者数は横ばいであるが、JR名松線と運行が重複していることから、各路線の役割分担を明確にした上で、路線を見直していく。 美杉地域公共交通あり方検討会におけるデマンド交通導入に向けた協議を継続していく。

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 丹生俣～竹原～一志病院 第7号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 地域からはデマンド交通の導入を希望する声が上がっているため、美杉地域公共交通あり方検討会にて、津市コミュニティバスのあり方について協議している。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・丹生俣ルート　111.5% ●目標の達成状況 前々年度比110%という目標を達成することができた。	利用者数は横ばいであるが、他のコミュニティバス（逢坂・飼坂ルート）と運行が一部重複している上、伊勢奥津駅から北畠氏城跡への観光需要に対応できていないことから、各路線の役割分担を明確にした上で、路線を見直していく。 美杉地域公共交通あり方検討会におけるデマンド交通導入に向けた協議を継続していく。
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 丹生俣～竹原、一志病院～マックスバリュ（川口店） 第8号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 地域からはデマンド交通の導入を希望する声が上がっているため、美杉地域公共交通あり方検討会にて、津市コミュニティバスのあり方について協議している。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・丹生俣ルート　111.5% ●目標の達成状況 前々年度比110%という目標を達成することができた。	利用者数は横ばいであるが、他のコミュニティバス（逢坂・飼坂ルート）と運行が一部重複している上、伊勢奥津駅から北畠氏城跡への観光需要に対応できていないことから、各路線の役割分担を明確にした上で、路線を見直していく。 美杉地域公共交通あり方検討会におけるデマンド交通導入に向けた協議を継続していく。
美杉地域			A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） 美杉地域全体　109.6% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年度比107%という目標を達成することができた。	平成29年度からの『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体として利用者数の減少傾向に歯止めがかかったが、JR名松線や他のコミュニティバスと運行が一部重複している上、伊勢奥津駅から北畠氏城跡への観光需要に対応する必要があることから、各路線の役割分担を明確にした上で、路線を見直していく。 美杉地域公共交通あり方検討会におけるデマンド交通導入に向けた協議を継続していく。
三重交通株式会社	美里地域コミュニティバス 平木～美里総合支所～湯の瀬 第9号系統	アンケートにより、久居地域への買い物ニーズがあることを把握した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・長野・高宮ルート　102.4% ●目標の達成状況 前々年度比80%という目標を達成することができた。	利用者数は横ばいであるが、平成29年4月に地域でスクールバスが導入されて以後もサービス水準を見直しておらず、1便当たりの利用者数が少ないことから、サービス水準を見直していく。 久居地域への移動ニーズについては、三重交通路線（榊原）への乗り継ぎ設定により対応していく。
三重交通株式会社	美里地域コミュニティバス 平木～美里総合所、美里総合支所前～湯の瀬 第10号系統	アンケートにより、久居地域への買い物ニーズがあることを把握した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・長野・高宮ルート　102.4% ●目標の達成状況 前々年度比80%という目標を達成することができた。	利用者数は横ばいであるが、平成29年4月に地域でスクールバスが導入されて以後もサービス水準を見直しておらず、1便当たりの利用者数が少ないことから、サービス水準を見直していく。 久居地域への移動ニーズについては、三重交通路線（榊原）への乗り継ぎ設定により対応していく。

（別添1）

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（生活交通確保維持改善計画に基づく事業）

資料２－２

協議会名：津市地域公共交通活性化協議会

平成　年　月　日

評価対象事業名：地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回（又は類似事業）の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性		⑤目標・効果達成状況		⑥事業の今後の改善点（特記事項を含む）
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行（航）区間、整備内容等を記載（陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助（調査検討の経費を除く。）を受けている場合は、その旨記載）】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか（方向性又は具体的な内容）を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
三重交通株式会社	美里地域コミュニティバス 美里総合支所～辰水農協前、稲葉口、美里総合支所～湯の瀬 第11号系統	アンケートにより、久居地域への買い物ニーズがあることを把握した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・辰水ルート　82.2% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年比70%という目標を達成することができた。	平成29年4月のスクールバス導入により利用者数は減少しているが、スクールバスの導入以後もサービス水準を見直しておらず、1便当たりの利用者数が少ないことから、サービス水準を見直していく。 久居地域への移動ニーズについては、三重交通路線（榊原）への乗り継ぎ設定により対応していく。
三重交通株式会社	美里地域コミュニティバス 美里総合支所～辰水農協前、稲葉口、美里総合支所前～湯の瀬 第12号系統	アンケートにより、久居地域への買い物ニーズがあることを把握した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・辰水ルート　82.2% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年比70%という目標を達成することができた。	平成29年4月のスクールバス導入により利用者数は減少しているが、スクールバスの導入以後もサービス水準を見直しておらず、1便当たりの利用者数が少ないことから、サービス水準を見直していく。 久居地域への移動ニーズについては、三重交通路線（榊原）への乗り継ぎ設定により対応していく。
美里地域			A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） 美里地域全体　91.6% ●目標の達成状況 【平成31年度】 前々年比75%という目標を達成することができた。 ●考察 平成29年度スクールバス導入による利用者数が大幅に減少している。	スクールバスの導入により小中学生の通学需要が無くなったことから、サービス水準を見直していく。 久居地域への移動ニーズについては、三重交通路線（榊原）への乗り継ぎ設定により対応していく。
株式会社一志運輸	一志地域川合ルート 姫路集会所～川合高岡駅～とことめの里一志 第1号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 川合高岡駅での接続に合わせ、随時ダイヤ改正を実施している。 アンケートにより、松阪市（嬉野地区）への移動ニーズがあることを把握した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数 【平成31年度】（前々年度比） ・川合ルート　148.3% ●目標の達成状況 前々年度比120%という目標を達成することができた。	利用者数は増加したものの、市外への移動ニーズがあることから、地域の枠にとらわれずに路線を見直していく。
株式会社一志運輸	一志地域高岡ルート とことめの里一志～石橋駅・川合高岡駅～とことめの里一志 第2号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 川合高岡駅での接続に合わせ、随時ダイヤ改正を実施している。 地域懇談会により、隣接する久居地域栗葉地区からの移動ニーズがあることを把握した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B	●利用者数（前年度比） 【平成31年度】（前々年度比） ・高岡ルート　100.5% ●目標の達成状況 前々年度比110%という目標を達成することができなかった。 ●考察 平成29年度から開始した『津市高齢者外出支援事業』により利用者の減少に歯止めがかかったものの、大きな増加には至らなかった。	利用者数は増加したものの、地域外からの移動ニーズがあることから、地域の枠にとらわれずに路線を見直していく。
一志地域			A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	●利用者数（前年度比） 【平成31年度】（前々年度比） 一志地域全体　122.4% ●目標の達成状況 前々年度比115%という目標を達成することができた。	平成29年度からの 『津市高齢者外出支援事業』により、地域全体として利用者数の減少傾向に歯止めがかかったが、地域を越えた移動ニーズが明らかとなったことから、一志地域公共交通あり方検討会や地域懇談会により詳細なニーズを把握しつつ、旧市町村の枠にとらわれずに路線を見直していく。

（別添1－2）

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

資料２－３

令和　　年　　月　　日

協議会名：	津市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費補助金

地域の交通の目指す姿 （事業実施の目的・必要性）	津市は、平成18年1月1日に10市町村の合併の合併により誕生し、面積は711．19㎢と県内で最も広い。 少子高齢化・人口減少が急速に進展する社会において、地域の活性化や地域経済の持続的発展を実現するためには、コンパクトなまちづくりとともに、拠点同士や拠点と居住エリアを結ぶ地域公共交通網の充実が必要不可欠となっている。このような状況の中、津市では、海上交通、鉄道、幹線システム、支線システムの連携による一体的な公共交通ネットワークの形成により、「一体感のあるまちづくりを支え、誰もが移動できる公共交通体系の実現」を目指している。